

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792900011		
法人名	医療法人 久慈会		
事業所名	グループホーム下志宝台		
所在地	福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松164-3		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の見渡せる高台に位置し、春から秋にかけて職員、利用者様と共に花を植えたり、畑を耕し野菜を育てています。ホーム内では、あまりカリキュラムにとらわれず落ち着いて、のんびり過ごせる時間を、提供することに努めています。また季節感を損なわないように、四季折々の行事を企画し、いつも笑顔で、楽しんで頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本位の支援と地域密着を掲げた運営理念をもとに、単年度の運営目標と一ヵ月毎の目標を設定し、職員も半年ごとの介護目標を設け、利用者の笑顔を生まれる介護に取り組んでいる。
職員は目標の設定することで、日々のモチベーションを保ち、利用者に寄り添い、振り返ることで、介護サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替えなどはなかったが、職員の指導が難しく思う様に進めなかったが、少しずつ理念を確認しながら、ケアに繋げるようになってきている。	理念を玄関に掲示し、職員は出勤したときに確認している。職員会議で理念について話し合い、共有を深めるようにしている。理念を基に事業所の年間目標と半年毎の職員一人ひとりの目標をつくり、半年ごとに反省し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域推進会議を定期的に開催したり、棚倉町ケアマネ会議へ参加している。近所付き合いが足りていない。	高校の職場体験を受け入れている。町の秋祭りを見学したり、スーパーでの買い物の際に馴染みの人と会話をするなど地域と交流している。地域との交流を更に広げるため、町と連携して幼稚園児や小学生との交流を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントなどに区長さんや、民生員の方に参加して頂き、少しずつ地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を行いスタッフへの会議、申し送りにて利用者様へのサービスに繋げている。	事業所の現状を報告し、行事予定や抱えている課題点について話しあっている。インフルエンザ対策には注意喚起など細かに対処し、家族の行事参画などの提案に対しては、長期的な取り組みの視点から実現に向けて模索している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて協力関係を築くようにしている。	町高齢福祉課とは家族と連絡しながら介護認定や更新、利用者の金銭の取り扱い方など相談している。町と事業所は地域初のグループホームとして密接に連携し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上、夜間以外は行っていない。帰宅願望のある利用者様には、プザーなど増やしたり、声掛けを徹底するなど努めている。	県主催の研修会に参加し、身体拘束をしないケアについて学んでいる。参加者は職員会で報告し共有している。支援の現場でも拘束にならないか、ガイドブックや関係者に相談しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア、ケース会議を通して話し合いを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、利用者様の中に成年後見制度を利用されている方がいる為、教えて頂きながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明しながら行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情、意見ポストを設置したり、来所された時にお伺いするようにしている。	居室担当制を取り入れ、利用者との人間関係づくりに努め、本人からは直接に、家族からは来所した時や電話で意見や要望などを聞いている。歌の好きな利用者家族の要望で音楽を流したり、好きな食べ物をおやつに提供するなど反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや、運営推進会議、所内ミーティング時に要望など伝え、反映されている。	月2回の職員会議の中や日々のケアの中で職員から意見を聞いている。必要に応じて面談も行っている。機能劣化した乾燥機の更新や洗濯機を修理するなど、職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体ミーティングや、直接管理者が状況報告などし努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会などの研修、法人内研修、地域研修を受けるようにしている。直接勉強会をホーム内で行って頂いたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修(交換研修)・研修委員に参加し、勉強会や会議を受けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅ケアマネとも連携を図りながらご本人、ご家族の要望をとらえ、コミュニケーションを図り信頼関係を築く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族の要望を確認のうえミーティングにて、職員間の意識を統一し、迷いのない関係作りを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、今すぐに入所希望される方、冬期間のみであるのか、希望を確認した施設を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを活かし、出来ることを中心に笑顔が見れるように努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や変化のなどは、その都度ご家族様に相談しながら進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブ、祭りへの参加、馴染みの人への訪問の声掛けなどしている。	友人が訪ねてきたときはお茶を出してくつろげるようにしたり、再訪をお願いするなど関係が途切れないようにしている。お墓参りや一時帰宅は家族の協力を得たり、お祭り見学や買い物など外出の機会を利用して、友人や近所の人たちと交流できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様のグループや利用者様が孤立しない様に、全員と関わりできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの情報、日常生活からご本人の思いをくみ取り、スムーズに次の生活が出来るように支援している。何かあったら相談して下さいと声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先し、精神面、体調などを考慮し、生活して頂けるよう職員間で話し合っている。また表情、言動を観察しながら、対応している。	思いを話せる人からは直接聞いている。難しい場合は居室担当職員や管理者が本人と話をしたり、日々の動作から推測するなど思いの把握に努めている。困難な場合は、家族に背景を聞きながら利用者本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴などをお伺い、それを踏まえホームでの生活を支援して行く環境を作っている。入所後は日頃の、会話の中から入所前の生活を察し、それに近づくようアセスメント話し合うことで職員間で共有し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを大切に、ご本人の好きなこと、出来ることの、継続が出来るよう職員間で話し合い、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の話し合い、ミーティングを踏まえ担当者が日常の状況をまとめ、ケアマネが介護計画を作成している。	入居時は本人や家族と協議して計画書を作成し、1ヶ月の試行を経て基本計画に移行している。見直しは基本計画を基に担当職員や管理者、計画作成者が家族意見を聞いて行っている。かかりつけ医とは毎月、連絡しあい、意見を聞いて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき記録、気づきや工夫を記入している。ミーティングにて情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的なりハビリ受診など、御本人やご家族のニーズにあわせ、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、フラダンス、太鼓、カラオケ、楽器演奏など来所し、楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望のかかりつけ医を受診し、受診後はご家族へ受診内容等について報告を行い、ご家族が利用者様の状態を常に把握できるように対応している。他科への受診は必ずかかりつけ医へ報告している。	これまでのかかりつけ医の継続受診が基本であることを説明している。専門医は家族対応で受診し、結果は報告を受けている。難しい場合や協力医の場合は職員が同行している。指導や薬については家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員への観察、報告、指示・訪問看護師による週1回訪問し、体調管理、アドバイス、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室に相談したり、連絡調整している。常に情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する書類を入所時と、急変時に頂く様にしている。	契約時に事業所が出来ること出来ないことを説明し、状態変化した場合の対応方法を確認している。その時にならないと分からないという家族が殆どで、食事が取れない場合や急変時には医師や家族と話し合い方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を中心に他部署間での救急救命の勉強会の参加を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接法人施設の利用。職員間の利用者様含めての避難訓練を行っている。地域への協力体制をすこしずつ動いている。	夜間想定避難訓練を年間2回、消防署員立ち会いで行っている。法人全体で1回、通報訓練は2ヶ月毎に行われている。避難訓練では火元を想定し、避難路を確認し、避難場所まで移動している。消防団との連携は事業所理解のため、見学などの打診を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、口調、態度、雰囲気に関心を持ち、目線合わせた語り方をしている。	人生の大先輩であり、さん付けを基本に、本人の性格に合わせた対応を職員で話し合っている。腰を下ろし、目線を同じにして声掛けをしている。居室にはノックし、声掛けをして入室している。洗濯物を置くにも本人の了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものを利用者様に聞いてメニューに取り入れたり、おやつの際、選んで頂いたり、飲み物なども選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、お手伝い、レク、行事参加もご本人の意思確認をしながら進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したり、眉かきしたり、毎日化粧水をつけたりと、ご本人が出来ることを見守りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を作ったり、草むしりしたり、他利用者様より料理の味付けを学んだり、会話を楽しみながら行っている。また、片づけなども一緒に行っている。誕生日には希望を聞きながら、献立を作成し、ケーキも作りお祝いをしている。	食事のメニューは利用者の要望を踏まえて、職員全員が交代で作成している。誕生日には外食で寿司を食べたり本人希望の料理を提供している。利用者は芋の皮むきや味付けなど出来る範囲で調理や後片付けを行い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	D-3シートや利用者チェックシートを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせて声掛けしたり、介助を行い支援している。朝、昼に液体歯磨きを使用している。夕の義歯には、毎日ポリデント洗浄消毒、仕上げ磨きも行っている。口臭予防に努め、口腔内異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の状態を観察し、早めに声掛けして行く。利用者様に合った形で排泄を行えるよう支援している。状態の変化には、職員間で話し合い、その人に合った物で使用し様子見ている。	布パンツをはいてトイレでの排泄を目標に支援している。夜でもトイレに誘導している。自分でいける人は自由だが、データ表を参考に、食事の前後や就寝前、お昼寝の後などに声かけてトイレに誘導している。さり気ない動きにも注意して声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを活用し、水分を多く摂取したり、食物繊維の多いメニューにしたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し入浴している。タイミングや、声掛けを工夫し、その人のペースで、安心してゆっくり入浴出来るよう支援している。	清拭を含めて毎日入浴になるよう支援を行っている。嫌がるひとは時間を決めて声を掛けたり、工夫をして入浴支援をしている。ゆずや緑色などの入浴剤を使用するなど、個人の好みに合わせて楽しい入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やしたり、生活のリズムを整えるよう努めている。個人の体力にも配慮し、必要に応じて休息の時間も取り入れ、夜間の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬を防ぐ為、一方化しており、看護職員を中心に状態を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特徴に合わせ、お手伝いをお願いし一緒に行っている。余暇時には歌を歌ったり、ことわざカルタや、本を読んだりしている。また、みんなで円になり、ボール遊びしたり、継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の心身状況を見ながら散歩したり、職員と買い物やドライブに出掛けたり、工夫している。ご家族の協力を得て外出・外泊も積極的に行っている。季節により、初詣、祭り、花見、紅葉狩り等、定期的な催し物に参加	天気の良い日は全員戸外での日光浴を目標にしている。事業所敷地や法人施設周辺への散歩、スーパーへの買い物と一緒に出かけたり、自宅への外泊など家族の協力を得ながら支援している。花見や紅葉狩りのドライブ、夏祭りなどにも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着がある場合、また一人世帯などの場合、ご本人管理として、お金を所持使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状はご家族宛てにご本人の名前や一言入れて出している。ご自分でダイヤルを押して電話をして頂いている。遠方いるご家族には職員から近況も入れやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾やイベントなどの写真、花等で工夫している。	建物の骨組みの木肌を生かした天井を持ち、利用者が集う食堂の採光は穏やかで、室温や湿度も適切に管理されている。誕生日の記念写真や行事写真、手作りの切り絵を飾り付けたり、洗濯物の室内干しなど居心地良い雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや各テーブルで過ごして頂けるようお茶を提供し、利用者様同士でお話したり、歌を歌ったり出来る様工夫している。一人で過ごしたいと思う利用者様は自由にくつろいで頂き、見守りをして対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの家族写真、お家で使っていた机、布団一式・洋服等持参して頂き、お家と近い環境で暮して頂けるよう工夫している。	利用者は居室に自宅で使用していた布団やタンス、テレビなどを持ち込んでいる。家族写真やぬいぐるみ、自宅で使用していたときと同じ洗面用具や化粧品類などの小物も揃えてその人らしい部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	似たような戸が多い為、各居室に写真つき名札を使用している。必要な場所へ手すりの取り付け等を行い、居室の電気を付けたり、消したりするのにひもの長さを利用者様一人一人に調節している。		